

IT Automation Conductor (座学編)

※本書では「Exastro IT Automation」を「ITA」として記載します。

№ Exastro

目次

- 1. はじめに
 - 1. 本書について
- 2. Conductorについての説明
 - 1. Conductorとは
 - 2. Conductorの特徴
 - 3. Conductorメニューの機能説明
 - 4. Conductorの作業フロー

1. はじめに



1.1 本書について

メインメニュー

●本書では、メニューグループの「Conductor」について、ご説明をしております。

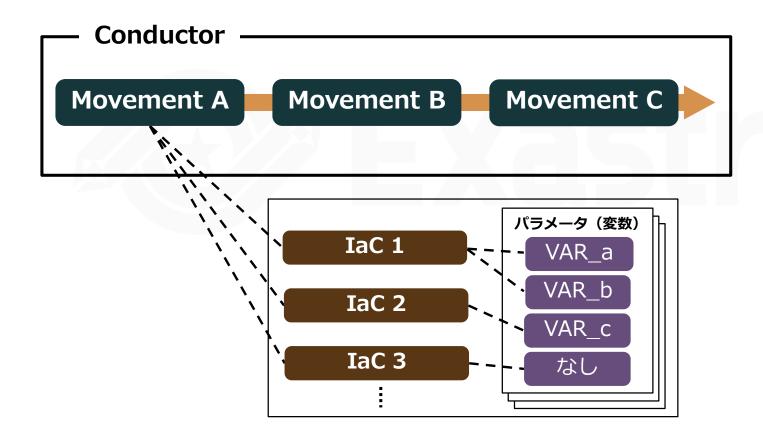


2. Conductorについての説明



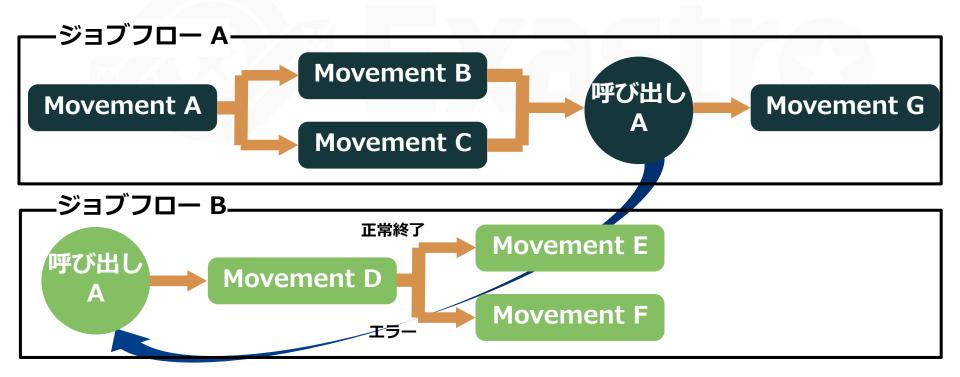
2.1 Conductorとは

- ●Conductorは、ITAにver1.5.0より追加された機能です。
- ●ITA における一連の作業の単位を指し、オペレーション名と関連付けて実行します。(ジョブフロー)



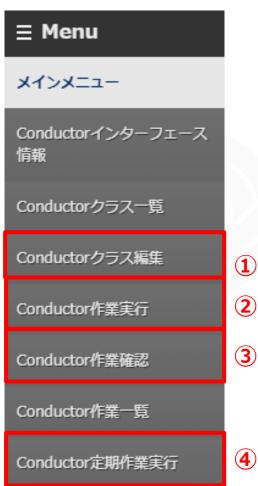
2.2 Conductorの特徴

- ●ConductorではSymphony機能と同様の作業実行機能に加え、以下の機能を備えています。
 - これらによって、Conductorでは**より高度なジョブフローを実行できます**。
 - ●Movement の並列実行
 - ●別のジョブフローの呼び出し
 - ●Movement の実行結果による条件分岐



2.3 Conductorメニューの機能説明 (1/12)

●Conductorにおける主なメニュー機能を紹介します。



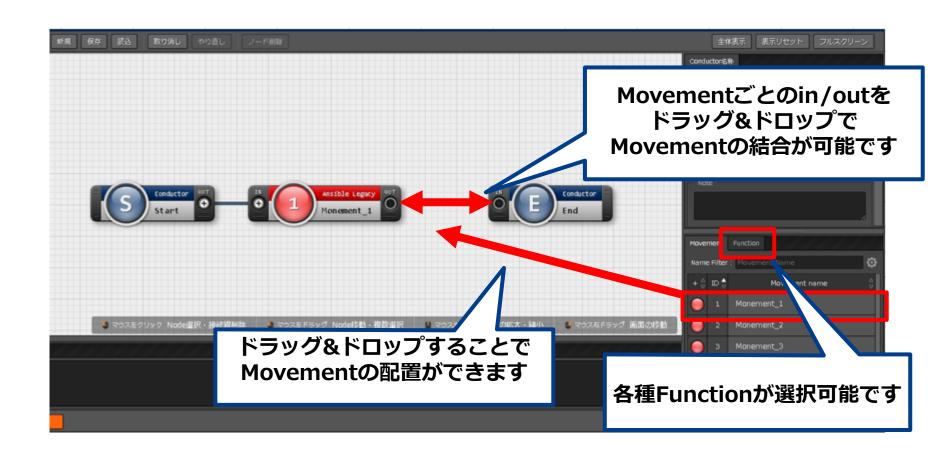
①Conductorクラス編集 作成したMovementを使用してオペレーションを作成します。

- ②Conductor作業実行 オペレーションを実行します。
- ③Conductor作業確認 作成したオペレーションの確認できます。
- ① ④Conductor定期作業実行② オペレーションを登録し、定期実行をおこないます。

2.3 Conductorメニューの機能説明 (2/12)

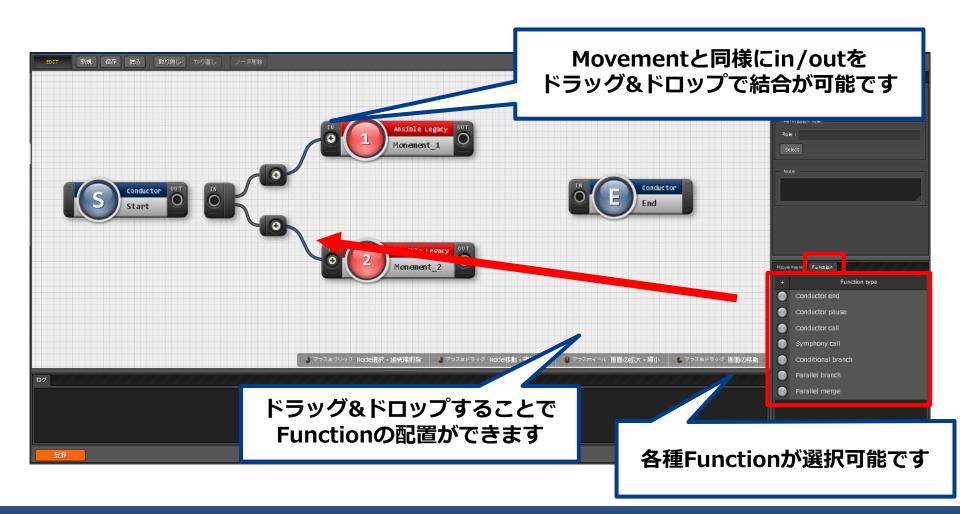
●Conductorクラス編集(1/4)

●「Conductorクラス編集」メニューではMovement、各種制御を行うFunctionの 追加、削除が可能です。



2.3 Conductorメニューの機能説明 (3/12)

- ●Conductorクラス編集(2/4)
 - ●画面右中央付近のタブから、オペレーションの条件分岐を制御する Functionを選択、使用することが可能です。

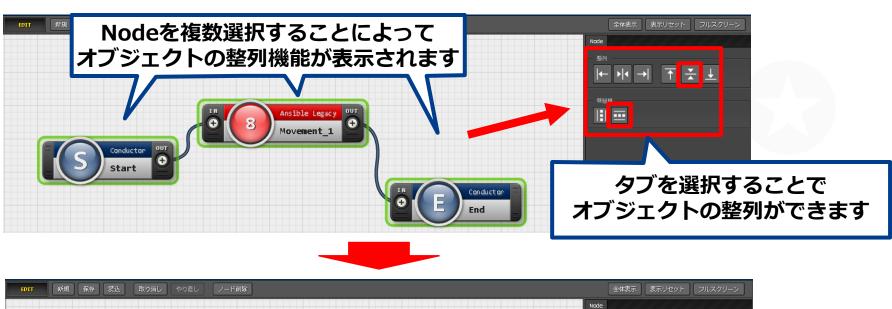


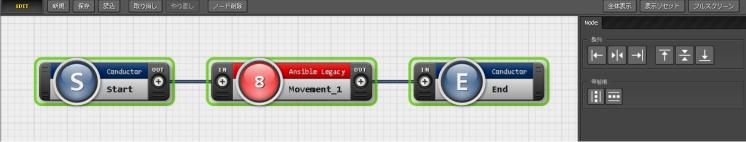
2.3 Conductorメニューの機能説明 (4/12)

●Conductorクラス編集(3/4)

Nodeを複数選択することで、オブジェクトの整列機能を使用することが可能です。 Nodeを複数選択する方法については、ドラッグアンドドロップでの範囲選択の他「shift」キーを押下しながらの選択が可能です。

以下のようにNodeタブの使用により、オブジェクトを整列することが可能です。 Nodeタブの詳細は<u>マニュアル</u>をご覧ください。





2.3 Conductorメニューの機能説明 (5/12)

●Conductorクラス編集(4/4)

●使用可能なFunctionを記載します。詳細は<u>マニュアル</u>をご覧ください。

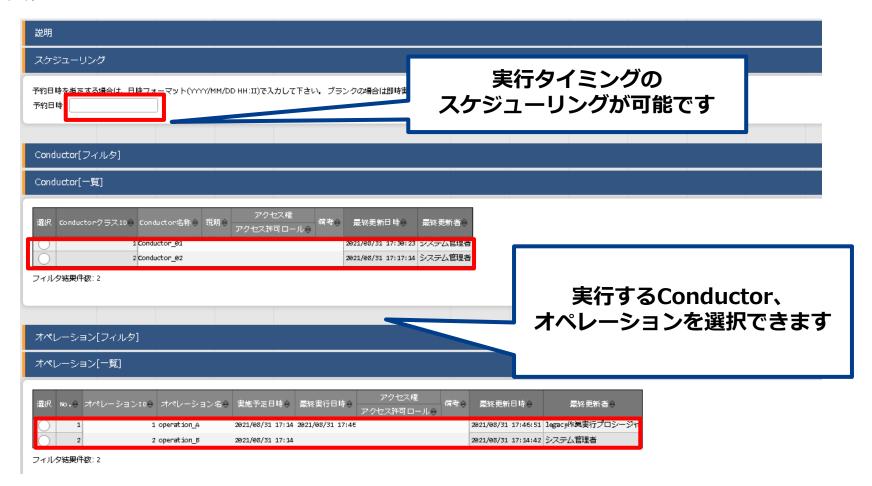
画像	名称	動作説明
S Conductor Start O	Conductor start	Conductor を開始します
Conductor End	Conductor end	Conductor 終了します。 ※複数の Conductor end がある場合、全ての Conductor end が終了を待ちます。
O PAUSE DO	Conductor pause	ジョブフローを一時停止します。 一時停止を解除すると、次の処理へ進みます。
Conductor call SUF	Conductor call	別の登録済みの Conductor クラスを呼び出し 実行します。
Sc Spekens roll	Symphony call	登録済みの Symphony クラスを呼び出し実行 します。
TO OTHER O	Conditional branch	接続された、「Movement」、「Conductor call」、「Symphony call」の結果によって、後続の処理を分岐させます。 指定可能なステータスは、以下になります。 ・正常終了 ・異常終了 ・緊急停止 ・準備エラー ・想定外エラー ・SKIP 完了
	Parallel branch	並列して、「Movement」、「Conductor call」、「Symphony call」を実行します。 ※並列可能な実行数は、ITA の構成やサーバースペックに依存します。

画像	名称	動作説明
O STANDIST	Parallel merge	接続している全 Node の処理が完了後、次の 処理を実行します。
Template to the second of the	Movement 各種	Movement を実行します。

2.3 Conductorメニューの機能説明 (6/12)

●Conductor作業実行(1/2)

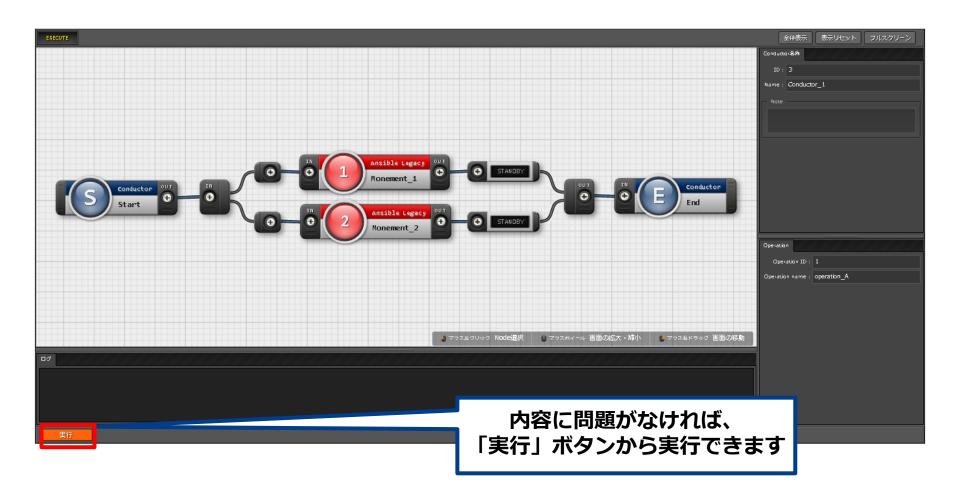
●「Conductor作業実行」メニューでは作成したConductor、オペレーションを選択し 実行します。



2.3 Conductorメニューの機能説明 (7/12)

●Conductor作業実行(2/2)

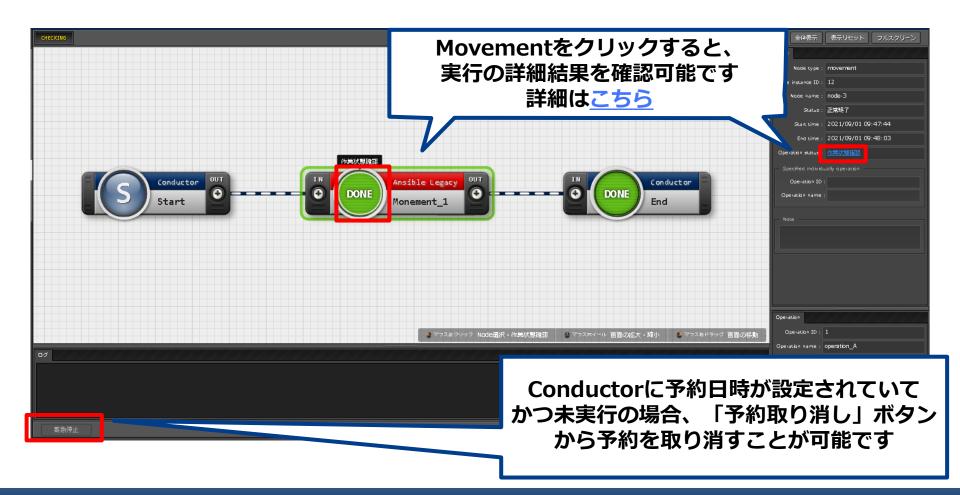
●ページ上部で選択したConductor、オペレーションが表示されます。



2.3 Conductorメニューの機能説明 (8/12)

●Conductor作業確認(1)

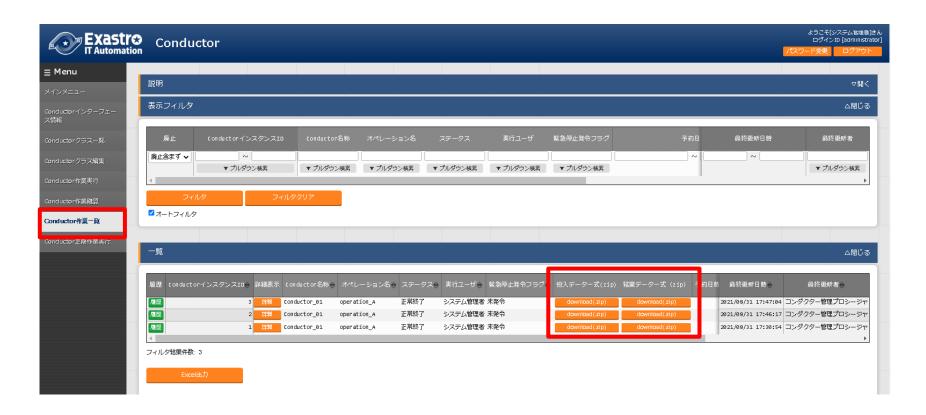
● 「Conductor作業確認」メニューから、Conductorの実行状態が確認可能です。



2.3 Conductorメニューの機能説明 (9/12)

●Conductor作業確認(1)

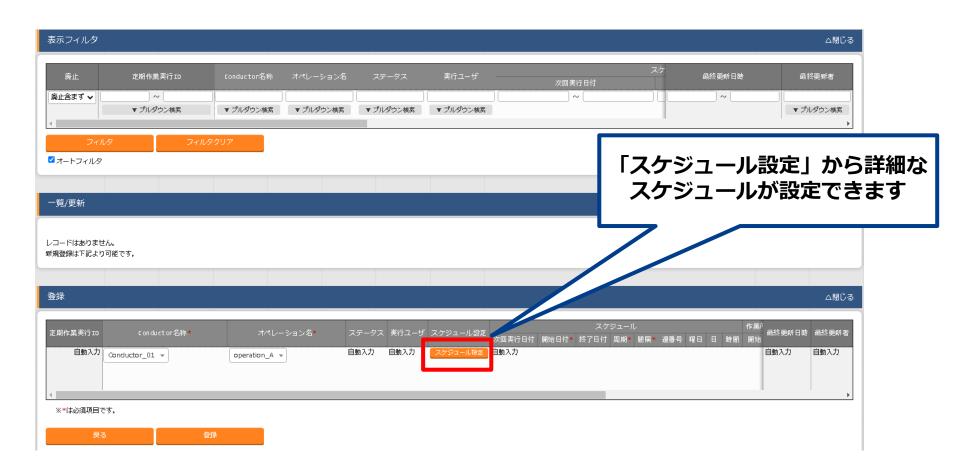
●「Conductor」メニューグループ >>「Conductor作業一覧」メニュー>> 「一覧」サブメニューにて、各Conductorの投入データと結果データを取得することができます。



2.3 Conductorメニューの機能説明 (10/12)

●Conductor定期作業実行(1/3)

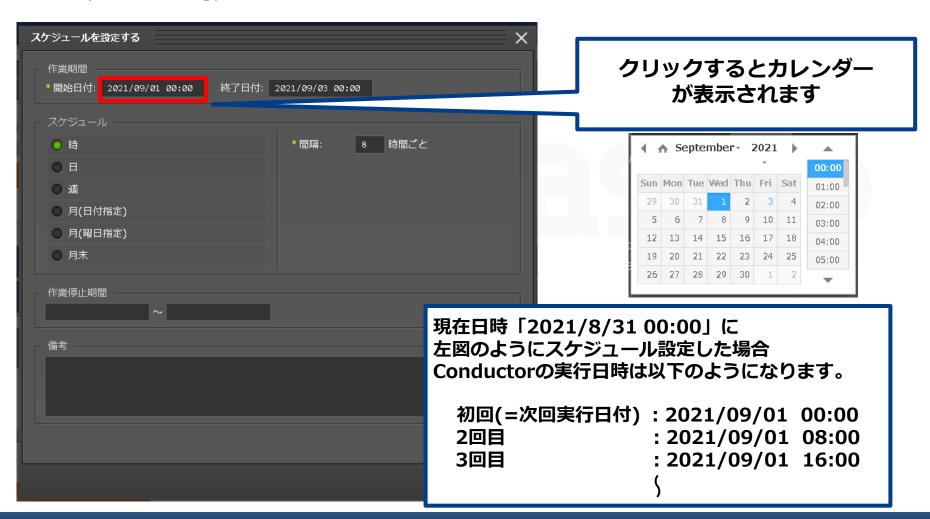
●「Conductor定期作業実行」メニューでは、スケジュールに従って定期的に実行する作業 を管理します。



2.3 Conductorメニューの機能説明 (11/12)

●Conductor定期作業実行(2/3)

●「スケジュール設定」は以下のように実行期間や、作業を停止する期間などの設定を細かく行うことが可能です。



2.3 Conductorメニューの機能説明 (12/12)

●Conductor定期作業実行(3/3)

- ●定期作業実行に登録したConductor作業は、次回実行日付のインターバル時間前になると未実行(予約)ステータスに遷移します。(インターバル時間の初期値は3分)インターバル時間はユーザ側で「管理コンソール」メニューグループの「システム設定」メニューより設定可能です。変更手順は管理コンソールの利用手順マニュアルをご参照ください。
- ●ステータス 未実行(予約)のConductor/Symphonyは 「Conductor作業一覧」メニューとダッシュボードの「作業状況」で確認できます。

【例】次回実行日付が「2021/9/1 18:00」 で インターバル時間が3分の場合、「2021/9/1 17:57」 に未実行(予約) ステータスに遷移します。



2.4 Conductorの作業フロー

●Conductorの作業フローは以下の通りです。実際の操作は実習編にて記載しています。

①機器情報の登録

基本コンソールメニュー

②オペレーションの登録

③Movementの登録

各種Driverメニュー

4 Movementの確認

⑤インターフェース情報を登録

Conductorメニュー

⑥Conductorの登録

⑦Conductorの確認

®Conductorの実行

9実行結果確認

⑩実行履歴の確認

